

津田昇平教話 第二十九話

令和三年一月二十九日 朝の教話



神からも氏子からも双方よりの恩人は此方金

光大神である。

おはようございます。令和三年一月二十九日をお迎えいたしました。  
今日、朝は少し冷えますね。ここ数日、比較的暖かい日が続いております。  
したけれども、また今日は冷え込んでる感じがいたします。

まあ冬と言いましても、暖かい日、寒い日というのはございますけど、  
急に寒くなって「寒いなあ」って、まあ思わず口について出ることもあ  
るかもしれないですけど、そこで、こう不足がましく出るのは嫌いややなと  
思いますね。

寒いのは寒いと事実として冷えてるんですから、「今日は冷え込みます  
ねえ」ということで、まあいいんですけど。せやけど、それがまあ「くそ  
ー、今日は寒いなあ」という感じで、不足がましい気持ちで言った、寒い

なあ、嫌やなあというふうにして、天地に文句を言うかたちになるのはやめた方がいいですよね。

それはまあ、あまりにも自己中心的で、天地というものに対して自分の命を沿わせていくのが本来であるところを、自分を中心にして物事を捉えて、天地全体を自分中心に見ていこうという考えに他なりませんので。あくまでこの大いなる天地に、命を恵んで頂いて、ありとあらゆるものを与えて頂いて、その中で生かされて生きていけるお互いですから。自分の身分をわきまえて、ただただ感謝し、お礼申し上げ、過ごさして頂かんと相済まんなあと思いますね。

「暑いやら寒いやら、そういう不足がましいことを三日言わなければ  
おかげになる」って、教祖様はね、農業されてらっしゃったからか、そう  
いうことを仰っておられましたけども。特に農家の方に仰ったんでした  
かね。農業しておられる方は、やっぱりどうしてもお天気が気になりま  
すんでね。「今日は雨やなあ」「今日は暑いなあ」「今日は冷えるな  
あ」とか「風が強いなあ」とかね。台風が来るんやらどうやらって、つら  
つら考えるでしようにし。思わずいつも、気がついたらお外を見て、空を  
見て、どうかなあ、ああかなあ、いいな、悪いなっていう気持ちになるん  
でしように。

けれども、天地の間で遊ばせて頂いて、農業する人は農業で遊ばせて



で「って、まあ言われる方もおられます。でも、そこに不足がましい気持ちがあるか、そうでないか、「今日は冷え込みますので、身体はどつですけれども、でも機嫌良く過ごして頂いてありがとうございます」って言うんやったらまあありがたいです、事実として。「今日はもう寒いからもう本当にね、もうちょっともう、かなわんですね、こういのは。もう早よ暖かくなって欲しいなあ、もう嫌なの私。嫌いなんですよ」とか言っ  
ね、「もう寒いのはね」とか言ったらね、これもう完全に不足がましいで  
しょ。聞くに堪えないですもんね。ま、冷えるというのが苦手とか、それ  
はそれでいいと思うんですけども。

天地にご無礼がないように、知らず知らずでも、ご無礼、お粗末、不



行き届きがあるというのは、うかうかめづりを積んでるってことになら  
ますから。このお天気一つとっても、信心させて頂いている者として  
の、正しい歩みを進ましてもらいたいもんやなあと思いますね。これも  
お稽古けいこですし、学ばして頂いて、あーそうなんだな、こういうとこに不  
足を言うと、まあそれこそ天に味方をして頂くことがないんやなとい  
うことを覚えてってもらえたらなと思います。

昨日は、天地金乃神様てんちかねのかみと金光大神様いんこうだいじんと氏子との間柄のことについて、  
少しお話をさせて頂きました。おさらいですけども、「天地金乃神同様  
に」「っていうふうなね、「同様と申し、生神金光大神」、金光大神お前は天

地金乃神様ともう同様やと。親子同然、姉妹同然のようなもので、もう天地金乃神もう同様であるってふうに、そこまでね、仰った。

まあ教祖様はもう「恐れ入ります」って仰ったけれども、「そんなことはせんでもよろしい」と。「金光大神あんたがおったから、氏子が助かることができるんや。天地金乃神ではもう氏子の目がつぶれても、病気になるってもよう治さん。でも金光大神、お前は、氏子の家の中のことやはまあもちろんのこと、鳥蓄類とりたくいに至るまでの目やら諸病やら身の上なんでも、諸事のことおかげを授けてやることができる」っていうことでしたね。

それを、おかげをつくるのは神様だし、おかげを結局授けて下さるの

も神様にしたって、間に立って、耳と口がある人間が、生きてる人間が、間に立って人に話す、聴いてあげる、取り次いであげる。そうすることによってね、神様のおかげを授けることができるようになる。氏子が話を聞いて、器の作り方を教えてもらい、その教えに従って暮らしていく中で、<sup>おの</sup>自ずから器ができてきますんで、そして神様もようやく授けたいおかげを授けることができ、それで氏子も助かり、神様も助かる。だから両方の恩人になっていくという、そういうお話をしておりました。

今日はそのことについて、もう少し具体的に、<sup>こんたうふうじもり</sup>近藤藤守先生、近藤藤守の伝えで出てくるご理解ですね。有名ではあるんですけども、神様と

金光大神様こんこうだいじんと氏子との関係がよく表れている一節があるなと思います。少しそのまんま、ちょっと長いですけどね、読んでみましょう。  
教祖様が

「私は生神ではない、肥こえかたぎである。天地金てんちかね乃神のかみ様に頼めばよい。私は、ただ神様に申し上げるだけのことである」

と仰せられ、ご神前に進まれると、すぐ神様から、

「金光大神は『肥こえかたぎの金光であるから、天地金乃神に頼めばよい』と言うが、此方このかた金光大神あつて天地金乃

神のおかげが受けられるようになった。金乃神は何千年来、あくしんじゃしん悪神邪神と言われてきたが、此方金光大神あつて神は世に出たのである。神からの恩人は此方金光大神である。氏子としても、此方金光大神があればこそ金乃神のおかげが受けられるようになった。氏子からも恩人である。神からも氏子からも両方からの恩人は此方金光大神である。金光大神、と頼んでおけばよい。此方の言うことを聞いてそのとおりにすれば、神の言うことを聞くのと同じである。金光大神の言葉をそむかないように、よく守って信心せよ」

とお知らせがあつた。その後、金光様は、

「今、神様があのように仰せられたが、私は神様の番人のようなものであるから、私に頼んでもおかげはいただけははしない。なんでも、天地金乃神様、と一心にすがれよ」

と仰せられた。そこへ田舎の人が参つて来て熱病のお願いをしたところ、

「金光大神にすがれ。一週間目にはおかげをいただく。心配はない」

とご裁伝があり、続いて、

「近藤さん、金光大神はあのよう言うが、金光大神にすがってればよい。まさかの折には、天地金乃神、と言うにはおよばない。金光大神、助けてくれと言えば、すぐにおかげを授けてやる」

とご裁伝があった。

【理Ⅱ 近藤藤守 三】

と出てきます。「近藤さん、」というのも、これは神様が仰ってるんですね。教祖様の口を借りてですから。教祖様の<sup>からだ</sup>身体、知能、言葉、知恵、知識、そういったもの、全部そこから通じますんでね。近藤さんという

表現にも当然なるわけですけど。

大事なところなんで、少し解説しながらお話をしていきたいと思います。

言うことは昨日と同じことなんです、繰り返しになります。

「私は生神ではない」と。金光様はね、仰っておられる。ま、一方でそう言われたり、自分でもそついつつに仰る時もあるわけですけどね。私は生神ではない、肥かたぎ、肥かたぎっていうのは、肥って言うのはね、まあ言ったら糞尿ふんりょうですよ、人間やらの。そういうた肥を、栄養素に変えて農作物にやると。まあ人間だけじゃなく牛とかのね。そういう動物の糞尿でしょう。それを発酵はつじょうさせ、肥料に変えていく。それを担い



でいく。ま、ある意味それはとても臭いことのように思われるでしょうねえ。

でも仰る時は、もう周りからは、「生神様、金光大神様」って言われるように思うけれど、「いや私はもうそんな肥を担いでいるようなそんな臭い仕事をしているような、そういう立場の人間や」と。まあ、そんなふうにも仰る。「天地金乃神様に頼めばよい。自分はただの肥かたぎに過ぎんから、もうなんでも天地金乃神様に頼んだらいい。私は、ただ神様に申し上げるだけのことである」

ここ、大事ですね。神様に申し上げる、お届けするところのこと。「お届けしておきます」というのと、「お願いしておきます」ってちょっと違う

ましてね。

「私はただ神様に申し上げるだけのことである」と仰せられた。で、そのまま御神前ごしんぜんに進まれたんですね。そしてたまたま神様から、

「金光大神は」自分のことをね、「肥こえかたぎの金光であるから、天地金乃神に頼めばよい』と言つが、此方金光大神こんこうだいじんがあつて、天地金乃神のおかげが受けられるようになった」

これもまた大事ですね。金光大神という存在があつて、できて、そして天地金乃神様のおかげをまあ授けることができるようになった。氏子としては受けられるようになった。で、「金乃神は、神様は、何千年来、悪神邪神あくしんじょうしんと言われてきたが、此方金光大神があつて神は世に出たのであ

る」

初めてね。もう本当の意味での神様っていうのがこの世に顕あひわれることができた。それまではもう誤解と偏見へんけんと思い込みばかりで、悪神邪神あくしんじやしんばかり思われてきたけど、そうじゃない、ということ。愛の神であり、恵の神であるということが、きちんとこの世の中に顕あひわれることができたよ。

「神からの恩人は此方金光大神である」

うん、そうですね。神様があって、金光大神様があって、神様としても、おかげを氏子に授けることができるようになった、神様のおかげを受けられるようになった。だから神様としては、まあ「此方金光大神は恩人である」と。そこまであ、仰あやって下さったんですね。随分すいぶん、へりく

だって言ってお下さっているわけですからねども。

氏子としても「此方金光大神があればこそ神のおかげを受けられるようになった」

そうですね。金光大神様があって、教えて頂いて、器の作り方を教えて頂いて、いうことですね。だから、受け物ができて、おかげをキャッチすることができるようになったということでしょう。だから、「氏子からも恩人である。神からも氏子からも両方からの恩人は、此方金光大神である」

これは金光大神讚仰詞（こんこうだいじんさんぎやうし）の中の一節に出てきますね。ここから取ってるわけですね。「神からも氏子からも両方からの恩人は、此方金光大神であ

る、「だからこそ「金光大神、と頼んでおけばよい」と仰るんですね。

教祖様は、「天地金乃神様と頼んだらよろしい」と仰る。藤守先生ふじもりのにね。

もう自分は生神なんてそんな大それた者でも何でもない、もうただの肥こえかたぎやと。でも、神様っていったらもう恩人であって、氏子からも神からも恩人なんやから、もう金光大神と頼んどったらそれでいいと。

で、「此方の言ことを聞いて、その通りにする、すれば神の言ことを聞くのと同じである」それが取次とすというもの。これは教祖様だけじゃなくって、後々まで、金光大神取次とすというもの。生神金光大神取次の、その取次とすというものを、定義付けて下さり、お守り下さっている。それをしっかりと守るために、永世生き通しの御霊様みたまとして、生神金光大神様

がお働き下さるといふ、そういうことですね。

「金光大神の言葉をそむかないように、よく守って信心せよ」ま、そりゃそうでしょうね。器の作り方教えて下さってるのに、そんなん全然背いて、自分の我流でやろうとしたら、それはまあ、おかげないですねえ。器ができませんから。

ま、そもそも自分に器がなかった状態で、助けて下さいって本来参ってるはずなのに、放っといたら、まあ勝手な欲やら我情我欲で、器を落とすしてしまって割ったりするんですもんね。うかうかですよ。分かってというわけじゃなくともね。先ほど最初に話して、「今日は寒いなあ、もお、クソ嫌やなあ」ってな感じで。不足がましく天気のことによってた

ら、言葉はごつであれ、心の中で不足言ったら神様には聞こえますしね。そないなったら、もう器がないんですよ。どんなに参ってもね、どんなに拜んでも、だっておかげを頂く器、自分で作ってないんですよ。手合わせて拜むばかりが信心じゃないんですよ。神様のおかげを頂くような器を心の中で作っていくことが信心ですから。そのための手段として、手を合わせたり拜んだりしとるだけの話でね。

そう思ったら、今は私がこうやってね、朝の暑い、寒いがあっても、そういうことはまあ不足に思わんようにするのがよろしいな、ということ。いねーっ、おかげのつく方です。」その言葉にいわばそむかないように

よく守って信心せよ、「って仰る。そうすると、お取次おとりつぎの言葉、この教話  
というもの、一人一人のお取次ではないにしても、一人一人に届くよう  
にと思って、ご祈念しながらお話しはいつもさして頂いてあります。

これも、生神いきがみ金光こんこう大神だいじん御取次おんとりつぎ、み教えを頂いてということですから、同  
じことですね。それをよく頂いて、よく守って、うけたまわ承うけたまわって、守って、そ  
して信心する。そうするとまあ、皆さんがその通りにしてくれたり、不  
足を言うことがなくなってきますね。そしたら神様のおかげをキャッチ  
できるようになる。

じゃあ、お天気のことでも、いつも感謝して、雨が降ろうが風が吹こ  
うが、暑かろうが寒かろうが、「ああ天地の恵み、ありがとございます」



っていう心で過あやしましてもらっていくと、いつでも天気は、天は自分の味方をして下さるし、少々のことやったら聞いて下さるし、良いようにお天気のことでも都合お繰り合わせ下さるようになってくる。そう、天と仲良くならしてもらえますからね。そういうもんなんです。はい。

とまあ、お知らせがあった。その後金光様は、「今、神様があのように仰せられたが、私は神様の番人のようなものであるから、私に頼んでもおかげは頂けない、なんでも天地金てんちかね乃の神様のかみ、と一心にすがれよ」。

これ、今度また、神様は「金光大神こんこうだいじんと頼たのんだらもうそれで、もう言いつとよう聞きいとけ」と、氏子うぢこに言いつとるんです。近藤藤守ちんとうとうしゅさんにね。でも言

われた教祖様は、「神様は今あのように言ったけど、とんでもない」と。  
いや私はただ神様のところに、まあ番人みたいなもんやで。ま、今見たら  
分かりますけど、神様ここおられて、私番人ですわね。実際そうです。  
で、神様の守もりとも仰ったり、もうただここに座って守をしてるだけです  
よ。よく時代劇なんかでね、お殿様とかあったら、そらあの入口んところ  
でドーンと、こうやって槍やり持って立ってらっしゃるようなもんやね。  
番人のようなもんであるよ。

で、私にどない言ったところでお殿様は奥やねんから、「あー私に言わ  
れても困る」っていうのもその通りなんですよ。だから「天地金乃神様  
と頼んでおきなさい」と、こう仰る。ま、それも本当ですね。

そしたら、まあそこに田舎の人が参って来られたと。藤守先生のね、お取次とりつぎが終わったのか、まあその途中なのか。で、熱病、まあお熱ねつが出たということなんでしょう。で、お願いしたところ、神様からその熱病の方に「金光大神にすがれ」と仰った。「一週間目にはおかげをいただく心配はない」とご裁伝さいでんがあったと。「金光大神にすがりなさい」、やっぱりここで神様が仰ってるんですね。これ、その参って来た熱病の氏子に對して。これ、近藤さんに言ってるわけではないです。

で、やっぱりここでも、神様は金光大神様に、「金光大神にすがれ」と仰る。もう、行ったり来たりですね。神様は金光大神、金光大神様は神様に。神様はまた金光大神、金光大神やっぱり神様にと仰る。もう、繰り返

しです。

で、その方のお取次が終わった後、続いて神様から、まあその方、熱病の方は帰られたんかもしれませんね。「近藤さん、金光大神はあのようい言うが」、つまり天地金乃神様にすがとったらええと。「金光大神はあのようい言うが、天地金乃神様って言うけれども、金光大神にすがっていればよい。まさかの折には天地金乃神、と云うにはおよばない、金光大神、助けてくれと言えは、すぐにおかげを授けてやる」、これ授けるのは誰ですか？ 天地金乃神様ですね。これ仰ってるの、天地金乃神様なんです。

でも天地金乃神様てんちかねのかみって言うても、そらおかげは下さるけれども、「天地金乃神様と言うにはおよばんと、金光大神こんこうたいじん、助けてくれと言えは、すぐにおかげを授けてやる」、「これも本当ですね。ま、どっちがどっちと言っちゃ、どっちもなんです、結局のところ。

ただ、まあどっちが得かって今度考えたら、今度はもう人間の側で、損得そんていで考えましょ。私的には金光大神を継すがっていった方が、まあおかげはもっと頂きやすいやろうと思ってます。

なんでかって言ったたら、氏子と神様と直通でやって結構なんですけどね、せやけどまあ聞きますけどね、「じゃああなたたち、そんだけ自分と神様とのパイプそんなに強いって自分で言えますか？」って逆に私、聞

きたくなる。

そうすると自分は神様をお願いしてるとは言っても、じゃ常日頃、ど  
れだけパイプがあるんやと。じゃそのパイプがほんまに太くてね、ま、  
極端きよくたんに言ったら、教祖様より太いんやったらそうしたらええと思います  
よ。その方がまあ、話が早いでもんね。けれども、金光大神の手続きを  
もってやった方が、「金光大神様」言ったらもうパイプが太いんやし、お  
届けしてくれて、ひよっとしたら祈り添えてくれるかもしれん。そした  
ら顔役ですからね。

顔役っていうのは、顔が立つってことです。神様の顔役ですから、だ  
から自分一人がお願いに上がっても、普通やったら、全然まあ聞いても

らえないようなことでも、顔役の方がついてもらって、「誰々さん、この人はどうこうこういう人なんで、まあ私の顔に免じて、一肌脱いでもらえませんか」って顔役になってくれはったら、「そうか、あんたが言うんやったら、まあこの人とは関係はそこまで深くはないけれども、あんたが言うんやったら、じゃあそうさしてもらおう」と、これ顔役の顔が効いてるわけでしょ。顔役であると教えもあります。ま、これもまた紹介できたら紹介しますけど。

で、こないなってくるね、どっちの方が、自分が神様に拜むというのんがパイプが太いんか。「金光大神助けてくれ」っていうふうにして、

ま、もっと一番言ったら、「金光様、神様」言つて、「神様、金光様」言つて、言うのはもうワンセットにするのが一番強力ですよ。

自分でも神様に向かうし、金光大神様のルートも使うし。そないなつたらね、鬼に金棒かなぼうやと思います。だから私はよつ、信心する人に、「神様と一緒に、金光大神様も一緒に」と言つ。神様、金光大神様にして、ダブルでやった方が私は得やと思うからです。

神様だけでも通じるのは通じるでしょう。せやけど、通じるからと言つておかげを頂くかどうかは分かりません。だって、「あんたのパイプ、どんだけ太いの」って逆に聞きたくなるんですよ。自信があるんやったらまあ、それでも構いやしません。



せやけども、顔役の存在がいて、そのパイプを使った方がいいんやったら、そこを使ったらいい。AルートかBルートか、あるいは、AもBも両方やっちまうかって、私は欲が深いのか、おかげを頂いてもらいたいからか、自分でもしっかり神様をお願いしながら、金光大神様のルートも利用したらええねん、って私は思うんですよ。その方が、氏子がおかげ頂けますでしょ。だから神様と金光大神様をワンセットにした方が、私はいいと思ってます。

ここではまあ神様か、こんこうだいじん金光大神様かと仰ってる。でもまあ私としては、神様、金光大神様ってもうワンセットで氏子には言わせたいなど。その

方がおかげ頂けるから。

だから常日頃から、お結界けっかいでお取次とりつぎする時に、「神様と一緒に、金光大神様と一緒に」。神様と一緒に、あるいは氏子にとったら金光大神様というても、目に見えないと分かりませんでしょ。教祖様とかだったらね。だから、「神様と一緒に、先生と一緒に」。この子にとっての金光大神取次者が私やと思ったら、神様と一緒に、先生と一緒にって言った方が結局、分かりやすいんですよ。だからその子には、そういうふうに言います。

で、だんだん大きくなってきて、ああ先生と、「先生は金光大神取次者なんやな」ということが分かったんやったら、もうそしたら「神様と一緒に、金光大神様と一緒に」って、言い直していきますよ。

その子どもの年齢やら、年齢だけじゃなくても、その子の中でどれくらい、私の存在というのが入ってるんかどうかによって、もうそれで分かる。

私は身体からだがありますから。口、耳がありますでしょ。藤守先生ふじもしの言う言葉で言ったら、「的まて」があるんですよ。だからこれがなかったら、ホントにね、「神様、金光大神様こうこうだいじん」言ってもね、目に見えない神様、金光大神様拜まむってね、やっぱり難しいんです。これパイプになりませんわ。だから生きてて、初めてパイプになってくる、的まてがあってパイプになるんです。だから、「神様と一緒に」「先生と一緒に」「金光大神様と一緒に」「昇平しょうへい」

先生と一緒に「これ全部、おなじじいです。

要するところは、あなたがおかげを頂くためには、神様と自分とのパイプは太くしていった方が得やけれど、でもそれだけやなく、金光大神の手続きをもって、何<sub>レ</sub>こともね、「何<sub>レ</sub>ことも金光大神の手続きをもって願<sub>レ</sub>え」って言うて下さっとるんやから。

それ、あかんのじゃなくって、むしろそっちの方が得やから、そこ大事にしなさいと。そしたら、祈っても下さる、さらにはおかげの頂く器の作り方すら教えて下さる。こんな得なことはないから。神様としても、おかげ授けたいけど、氏子だけやったら授けにくい。だったらもう、金光大神の手続き通ってくれよと。そしたら神様だっておかげ授けてやり

たいから、授けてやれるやないかと。

直通でやろうとしても、ま、結構やけれど、そやけどお前、器の作り方、分かってへんのんちゃうか、どんだけ分かってんの、どんだけパイプ太いの、ってなってくるんですよ。

でも、するとせんのは違いますよ。拝まれるこんごうだいじん金光大神様にとったらね、「いや、私おかげ授けるわけちゃうからそんな拝まれても」「これも本当ですよ。これも実際そうですよ。私もやっぱり最初の頃はね、先生って言われても「先生言うなっ」って逆に怒ってましたからね。

だからもうある人なんか、「もう先生のおかげでって言いたいけど、言

ったら怒られるからもう怖くて言えないから、もう神様のおかげでって  
言いますけど、私の中では先生のおかげで「って言う人、やっぱり結構  
いましたもんね。それぐらいもう私、言わさんようにしましたけど。」

でもある時、神様にそれ叱しかられましたね。『もうそんなこと言うてたん  
やったら、おかげも授けたくても授けにくくなるから、もうそれやめい』  
って言われました。私としては私が助けてるわけじゃない、神様が助け  
て下さってるのに、と思う。せやけど神様は、『お前がおって、話をして、  
聴いてるから、おかげを授けようがある。氏子にとったらお前に助けら  
れたも同然ってなる。それでいいのに、お前がそうやって神様を立てよ  
うとするから、余計に神様のおかげを授けにくくなる』って。

そう言われたら、「はあ、そうかあ」と思いまして、それから、「ああ、先生ありがとうございます」と言われたらね、もう何かね、こしよばいですよ。しんどいんですよ。「いや、そんな私に言われんでも神様に言ってくれたらもうそれでええから、もうええよ」と言いたいんですけども。もう喉のどのね、口の出るところまで出ますけどね、いやそれ言ったらいかんゆうて、いやーと思いましたけど。

もうとにかく言われたんやったら、「はい」「って」「そのように」「って」思って、受けるようにはします。受けるようにはしますけれど、でも気持ち的にはもう、神様からおかげ頂くんやから、神様にお礼申しといてへ

れたらもうそれでええ、やっぱりそれはそうなりますよ。

だって、自分自身が何者や言うたら、ただの至らん弱い難儀なめぐりの深い氏子に過ぎませんからね。それをほんまに思うと、自分を拝んでもらうなんてことは到底考えにくいですよ。ただ私という人間におけるがあるんじゃない。私の姿、形におけるがあるんじゃない。私の働き、形におけるがある、ここが金光大神の働きを顕していくわけですから。

「金光大神の姿、形におけるはなし、金光大神の御霊の働きにおけるがある、こんこうだいじん、こんこうだいじんとついで、私という金光大神取次者の御霊の働きにおけるがある。」



だからね、お結界けっかいで柏手かしわで打ちますでしょ。(四拍手しはくしの音) じつやって私もここでやっとんですよ。皆さんが私に向かっているんじゃない。私、ここで私に向かってやってる。これ津田昇平つだしやうへいにやっとんじゃない、私の中の御霊の働き、私の中の御霊の働きは金光大神というその働きを顕あらわす。そのためにも私もおるわけですけど。その働きに対して拜まじんどるんです。お働き下さい。ほんで私は邪魔まじしませんようにぐらいのもんです。そういうことですから、昨日からのみ教えもね、やっぱりおんなじように出て来ますよね。「天地金乃神てんちかねのかみ同様に」というふうな言葉は、結局ここにも繋つながってくるわけですからねども。

神様がおかけを授けて下さるとは言っても、金光大神様と言うのは

神様と同様であると。ま、神様はそう仰るべうらいに繋がりが深くなった、深い存在である。うん、まあそういうことですよ。そういうことにしまし  
よう。

だからまあ、しっかりと金光大神こんこうだいじん様に、神様にすがっても本当はおか  
げ頂くんですけども、神様にすが縋ったって言ったら、お届け聴いてたら、  
こっちはもう神様にお願ひしますんでね。もう「先生、拜んどいて下さ  
い」なんて言わんでも、こっちもお願ひするんですけども。

でもま、神様からしたら金光大神って言うたらそれでいいと。

「天地金乃神様てんちかねのかみと言うにおよばん、金光大神助けてくれ」、氏子にとった

らがある方がね、拝みやすいところは確かにありましてね。神様って言うても、感覚的には自分にとったら神様がちょっと遠いと。姿、形も見えんし、疑うたがえばキリない。

せやけど、的からだがある金光大神様やったら生きててね。身体からだがあるし、目に見えるし、喋しゃべってくねるし、聴きいてくねるし、見てもらえるし、ってなってくると、その方が拝みやすいとらうとらうがあるから。だから「先生！」とか、「金光様！」とかいうふうにして、まあやっぱり拝みやすくなつて、申し上げやすくなるんですよ。これもま、よくあります。

昔から信心にご縁ある人はそうでもないかもしれないですけど、未信みしんの人がお参りされるようになったら、やっぱりね、そりゃ顕著けんちやくですよ。姿

があるということは、やっぱり強いんですよ。肉体があるということが、生きてるといいうことが、大きいんです。

だからやっぱり神様のご慈愛じあいというのは、人間を飛び越えるってことはできないってね、教えもお話をしていきましたけれども。生きて、ここに神様が差し向けて置いて下さってる、その生身の人間である金光大神取次者こんこうたいじしやを拝むということによって、拝みやすいんです、神様よりね。生きて目に見えますから。

で、それを通じて神様のおかげを頂きやすくなる、ということの中で、まあ神様は「金光大神に縋ればよい」と仰る。で、金光大神様としては、

ま、私の立場でしたらもう「神様」、これも本当です。うん、どっちも本当なんです。結局は、おかげは神様が授けて下さるんですけどね。

ま、神様からも氏子からも両方の恩人であり、私としては、お勧めは神様だけじゃない。金光大神様だけじゃない。お勧めとしては「神様、金光大神様」って、もう癖づけるようにした方がいいですよ。

神様だけ、まあ別にそれでも悪くない。で金光様、金光大神様とか、もう先生でもまあ、悪いとは言いません。うん、それでもおかげは頂けるでしょう。せやけどお勧めは、そのAコース、Bコースちゃうんです。三つ目のABコースなんです。「神様、金光大神様」、あるいは「金光大神様」ってまだ、お届けで言ってもらえない時は、「神様、昇平先生」「神

様、親先生」「神様、先生」どれでも一緒です。

神様と金光大神様（こんこうだいじん）のダブルのルートを私はお勧めしてます。その方が、皆さんがおかげを頂きやすいのは間違いないと思ってますから。その中でできるだけお参りして、お取次（おとすじ）を頂いてないと、私との関係も薄かったらどうしようもないですからね。

そうなんですよ。私との関係も薄かったら、いくら「神様、金光大神様」言っても、結局、「神様」言ってるのと大して変わりません。そして、自分と神様のルートだけでなりますでしょ。それはそれで、なかなか難しいところがありますけどね。だからお結界（けっかい）で生きている人間を神

様がわざわざ差し向けて置いて下さってる意味っていうのを、よう考えんとあきません。

何回も言いますが、取次とりつぎは生きてないとできないんです。取次の業わざっていうのは、死んだらできません。そら取次を見守る神様としては働くことはできます。でも口、耳があるわけやありませんから、生きてないと取次というのはできません。だから「万国ばんこくまで残りなく金光大神こうこうたいじんで」です。そうでなかったら、教祖様が一人おったらもうそれでいいやないですか。亡くなくても、お取次してくれはるんやったら、もうそれでいいじゃないですか。

でもね、教祖様も神様もね、教祖様は死んでからも取次をするなんて、ただの一度もどこ探しても出て来ないですよ。それはそうです。できないですもの。これ、肉体があるからできるんです。生きてるから託たくしてあるんです。教祖様だって、後々の者たちに託してあるんです。だから、口があるということ、耳があるということ、この命があるということが、取次だいぜんていをできる大前提なんですな。

ほんで、この道なんです。これがあってこそ、本当に神様と氏子との間がきちんと繋がつながっていく。おかげを授けることができる。器の作り方を教えて頂けるし、お祈り添える、添えて頂いたら何倍にもなるでしょう。氏子がいくらお願いしても、百お願いしても私らが五、お願いした



ら五百になりますよ。氏子が百お願いして、私が十お願いしたら、そろ千になりますよ。じゃ百円で買えんのと、千円で買えんのとでは違いますでしょ。そこで真が違うんですから。取っ替えですよ。千円で買えるおかげと、うーん、百円で買えるおかげとって、買う買わんの話やないけど、取っ替えなんですから。

これも、やっぱり全然違いますでしょ。だから何にしたって、「何ごとも金光大神の手続きをもって願え」と言うのは、まあ、いろんな意味において得なんですよ。でも金光大神の手続きをもって、てんちかねのかみ天地金乃神様に願えなんです。ここ大事やと思います。ここほんとに大事なんです。

だから私的にはね、神様、金光大神様、おかげを下さるのは、授けて下

なるのは、作って下さるのは神様ですから。もしそこはもし、当然です。でもルートがありますから。特別なルートがあるんですよ。用意して下さってるんです。わざわざね。

それが、ま、お教会によったらね、金光大神様こんこうだいじんがいらっしやらずに、座ってらっしやらないところはなかなか大変ですよ。本当にね。お参りして、生きて、お取次おついで頂くことができないお教会、もういっぱいありますから。それ本当に気の毒です。お参りしてもね、うん、そういう方もいる。だから、私こうしてね、インターネットや、こうやって朝の教話でも、ま、いろんなお教会の方々にも聞きたい言う人があったら、もう送

っていいよって、今言ってるんですね。それはなんでか言ったら、もう金光教の中でも段々と趨勢すうせいいが弱ってきてね、で、お広前ひろまえに参っても、誰も先生いらっしやらない。あるいは自分（お参りする人）が鍵かぎ開けて、鍵閉めて、もうそついう時だけ。しかも、誰か先生おられるわけじゃない。何人かの信者さんで手を合わせて、月例祭の日だけご祈念して帰る。そんなのがいっぱいあるんです。もう可哀想かわいそうでしょう。だから、そついう人に話を聞いて、もう一対一のお取次まではなかなかしてあげたくてもできませんけど、でも話を少しでもこつ聞いて、ああなるほどと思って、それを心にかけて信心しやすいうようにということを思いながら、いつも話をさしてもろつてます。

そうすると、その方だって話を聞いて、ああなるほどなあと、ああ尼崎の先生こんなふう<sup>に</sup>仰ってはったな、ああそうか尼崎に、自分のお広前の金光大神様は今居られんけれども、でも尼崎の先生がこうやって聞かして下さるんやなあと<sup>思</sup>って、それを聞いてなるほどと合点がいつて、わが身わが一家を練習帳にして下さったら、そしたらパイプがやっぱりできてくるから、やっぱりおかげは頂きやすくなる。

まあそういう御道<sup>おみち</sup>全体<sup>の</sup>ことも、やっぱり私なりの至らんと<sup>ころ</sup>ではありますけれども。願いを懸<sup>か</sup>けて、録音してもらい、それを(冊子にして)配布してもらったり、少し日は遅れたりするのかもしれないが、

できるだけ聞けるようにして下さっております。

そのようにして、できるだけ御道の話、信心の話、教祖様が残された御道をね、それを大事に繋つなげていくことができたらいいなあと、そのように思っています。

時々こうやって、話が長くなる時がありますけどね、忙しかったらもう失礼して、帰ってもらって結構ですからね。はい、私はそんな時の気分です。はい。

どうぞ今日も一日、神様から一日をね、頂ちやうだい戴しております。どうぞ心を神様に向けて、信心の稽けいこ古に励ましてもらいましょう。

一日の稽古が終わって、一日のお礼の時に、清書せいしよをお渡しする時にね、神様に丸つけてもらえるように、それぞれの渡された背景はあるにしても、でもどうぞ、心を神様に向けて、神様と一緒に、金光大神様こんこうだいじんと一緒に、ということとは金光大神様のお祈り添えを頂いて、御取次おんとりじぎ、み教えを、心にかけてながら暮らしていくということですよ。そして神様のおかげをどうぞ頂いて下さい。信心の仕方を教えますから、どうか信心して下さい。「しんはわが心、じんは神である。わが心が神に向かうのをもって信心」という。神徳の中におっても、氏子信なければおかげなし」と仰いますんでね。

神様を信じる心を大事にしながら、どうぞ、今日も一日おかげ頂いて下さい。ようお参りでした。

(了)



---

# 津田昇平教話 第二十九話

令和三年一月二十九日 朝の教話

令和六年七月八日 初版発行

発行所 金光教尼崎教会

〒六六〇一〇八九二

兵庫県尼崎市東難波町三一七一五

---